

相談支援係  
072-941-3365

情報チーム  
072-943-5785

研究研修係  
072-943-5784

教育センター  
Web pageは  
こちらから



## 通級指導教室担当者会①（全体会）



令和5年4月10日（月）午後3時～午後5時に通級指導教室担当者会①（全体会）を本センターで行いました。講師は本センター辻佳与子指導主事で、令和5年度通級指導教室の体制について説明しました。その後、一般社団法人 発達支援ルーム まなびの理事、今村佐智子さんより「通級指導教室開設にあたって」と題して講義をしていただきました。

### <受講者感想>

- ・通級の基本、学校組織として大事なこと、アセスメントや指導方法について再確認し、勉強できるので大変ありがたい。自校で、自分の授業で実践していくときに大切にしていきたいと思う。
- ・まずは通級入室を希望している児童の様子をしっかりと見に行き、その子の困っていることへの分析・手立てを考えたいと思った。また、保護者や学級担任の先生たちとも安心して任せてもらえるように丁寧に連携を図っていきたい。
- ・通級指導担当の経験は少ないが、研修で学んだことを子どもたちに還元できればと思った。アセスメントの大切さが理解できたので、これから授業を始めていく中で、しっかりと実施内容を考えていきたいと思う。

## 校務支援システム説明会（小学校）



令和5年4月10日（月）午後3時30分～午後5時に校務支援システム説明会（小学校）を行いました。講師はシステム提供業者担当で、本市で導入されている校務支援システムの基本的な操作について説明を行い、質疑応答を行いました。このシステムについては業者によるヘルプデスクが設定されていて、e-mail や電話で操作についての問い合わせを行うことができます。

## 支援学級等教育課程説明会



令和5年4月11日（火）午後2時～午後3時に支援学級等教育課程説明会を行いました。講師は本センター中嶋巨人指導主事と辻佳与子指導主事で、内容は支援教育及び通級指導教室についての教育課程の編成や提出書類についての確認等です。市内各校の教頭及び特別支援教育コーディネーター等が出席しました。

## 10年経験者研修①



令和5年4月11日（火）午後3時～午後5時に10年経験者研修①・養護教諭10年経験者研修①を行いました。開講にあたり、本センター打抜真由美所長より挨拶がありました。最初に「教職員の服務について」とのテーマで教育委員会事務局川口寛雅参事から講義がありました。次に「OSAKA 教職員スタンダードから見るキャリアステージ」「組織づくり チームビルディング【理論】一人ひとりの能力や強みを生かした組織づくり」とのテーマで本センター山野元気指導主事が講義を行いました。

### <受講者感想>

- ・チームビルディングで大切なことが分かり、今後の業務につなげることができると思う。現在情報部で部長をしている。情報部の運営で少し悩んでいたのが今回の研修内容はとても参考になった。コミュニケーションをもっと密にして、主体的に活動できるようにしたい。
- ・様々なポジションの同期とチームの作り方についての意見を交流でき、とても有意義だった。チームを組織していくうえで4教科（音・美・技・体）の先生が学校全体の生徒と最もかかわっているという話は視野が広がった。それぞれの強みを生かしたチーム作りをめざしたい。



## 校務支援システム利用者説明会（中学校）



令和5年4月12日（水）午後3時30分～午後5時に校務支援システム利用者説明会（中学校）を行いました。講師は本センター三村昌弘主査で、本市で導入されている校務支援システムの基本的な操作について説明を行い、質疑応答を行いました。このシステムについては業者によるヘルプデスクが設定されていて、e-mail や電話で操作についての問い合わせを行うことができます。

## 初任者研修②



令和5年4月13日（木）午後3時～午後5時に初任者研修②を本センターで行いました。

最初に「服務について」をテーマに教育政策課古海裕土指導主事が講義を行い、次に「人権について考える1 一人権尊重の教育について」をテーマに人権教育課中井良太指導主事が講義を行いました。



### <受講者感想>

- これまでも意識してきたことではあるが、今回の講義をうけて、服務について改めて襟を正していきたい。勤務中は勿論だがそれ以外の時間でも自覚をもって過ごしていこうと思った。
- 安易な自己判断や慢心、自分勝手な思い込みが信用失墜行為につながり、まじめに働いている先生方にも影響が及ぶということが特に印象に残った。だからこそ、学校で何かトラブルが起こった際には一人で抱え込んだり、勝手な判断で対応したりしてしまうのではなく管理職や周りの先生方に相談し、チームで取り組んでいくことが重要であると感じた。
- それぞれの子ども良さや持ち味を伸ばすということが特に重要だということを感じた。特にジェンダーについての話など、何気ない会話が子どもの安心感や孤独感とつながっていくので、言葉の選び方には気を付けたいということを感じた。また、環境整備などの工夫できる点については積極的に取り入れて、多くの子どもが学びやすい学習環境づくりを行いたい。



## 特別支援教育コーディネーター研修①



令和5年4月14日（金）午後3時～午後5時に特別支援教育コーディネーター研修①を行いました。この研修は小中義務教育学校及び市内の公私立就学前施設のコーディネーターが受講しました。まず、本センター戸田智規指導主事より「大阪府の支援教育の現状について学ぶ」とのテーマで講義を行い、続いて梅花女子大学教授の伊丹昌一さんが「特別支援教育コーディネーターの役割、アセスメントから効果的な支援へ」とのテーマで講義がありました。

### <受講者感想>

- 具体的な事例に対して考えることができ、今後の参考になった。実際にペアで話し合いをすることで自分が体験することができて受容共感されることの大切さを感じた。
- 子どもへの関わり方や、保護者への対応の仕方（傾聴）、事例の検討など、今後に生かすことができる内容でとても良かった。
- 心揺さぶられるとても充実した研修だった。どう支援すればその子が困らないようになるのか、意欲が能力を高めるなど、支援教育に携わる者としての考え方を改めて教えていただいた。

## 校務支援システム管理者説明会（中学校）



令和5年4月14日（金）午後3時30分～午後5時に中学校校務支援システム管理者説明会を行いました。研修講師は本センター三村昌弘主査で、校務支援システムの管理者として必要な操作の説明を講義し、質疑応答を行いました。

## ICT を活用した授業づくり研修①



令和5年4月17日（月）午後3時30分～午後5時にICTを活用した授業づくり研修①を行いました。研修講師は本センター山野元気指導主事でテーマは授業支援ソフトの基本操作です。この研修は3年・10年経験者研修の選択研修の対象にもなっています。授業支援ソフトは導入後3年目になりますが、他市からの転勤者や産育休明けの教諭などの参加もあり、今回のような基礎講座を充実させることが、すべての教員のICT活用指導力向上につながります。

### <受講者感想>

- 初歩的な操作は知っていたが、アンケートの作り方やシンキングツール、PDFファイルを取り込む方法など初めて知ることも多くあった。発展的な使い方や、授業での具体的な使い方も知りたいので、さらに研修を積んでいきたい。
- 回答共有をするときに、無記名にすることで、本当の気持ちを書きやすくなるというやり方を学んだ。状況によって使い分けていきたい。また、テキストカードの色を変えて、質問はピンク、感想は黄色など色を分けることで、それぞれのカードを読まなくても、テキストカードの内容が判別できるので有効活用が期待できる。
- シンキングツールの具体的な使い方などが分かった。今後、シンキングツールを使った学習をさせていきたいと思った。

## SSW配置校活用研修（管理職・コーディネーター）

4月21日（金）午後3時30分～午後5時にSSW配置校活用研修（管理職・コーディネーター）を行いました。講師は八尾市スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザーの植田芳行さんで、研修テーマは「スクールソーシャルワーカーの有効な活用について」です。

この研修はスクールソーシャルワーカー（SSW）の配置校での有効な活用について研修し、子どもの最善の利益が尊重され、安全で安心して学ぶことができる学校づくりの推進のために行われました。

## 校長研修会（特別支援教育研修）



4月24日（月）午前9時30分～午前11時30分に校長研修会（特別支援教育研修）を行いました。講師は大阪大谷大学教授小田浩伸さんで、研修テーマは「特別支援教育の推進について」です。サブテーマは「特別支援教育の新たな展開と課題」「多様なニーズのある児童生徒の現状について」「多様なニーズのある子どもの理解と支援について」「個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて」です。

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のことや通級指導教室の在り方について等、校内における取組み推進につながる内容が多くありました。

## 新・転任教頭研修会



4月25日（火）午前9時30分～午後12時に新・転任教頭研修会を行いました。市長部局・教育委員会事務局の各課から新任の教頭に対して事務的業務の説明が行われました。具体的な事務作業に関する書類が配付され、詳細な説明と質疑応答が行われました。その後木下直人次長から「新任教頭に期待すること」と題して講話が行われました。

### <受講者感想>

- ・オンデマンドによる研修や説明会が多い中、集合開催していただき、質問もその場でできてよかった。
- ・市教委に勤務してきたが、他課の業務はなかなかわからず、今日の研修で納得できた。
- ・今回の資料を何度も反復して見ながら、日々の業務に生かしていきたい。
- ・次長の、講師や市費職員の気持ちにも寄り添っていかなくてはならない、という話は特に印象に残った。今後そのことを心に留めながら業務にあたりたい。



『乳幼児期の教育・保育』は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っています。就学前施設では、生活や遊びを通していろいろな経験をしていきます。その中で、喜んだり、驚いたり、考えたり、試したりして発見する嬉しさや達成感につなげています。

「ただ遊ばせている」「遊んでばかり」と思われていませんか？

幼児教育で用いる「遊び」は、「育ててほしい子ども像に向かう中で、ねらいに即した計画的かつ柔軟な遊びの環境を整えていくこと。また子どもたちの興味・関心に合わせて、主体的に遊べるような環境を工夫すること。」が含まれています。

今年度は『そだちのねっこ』として、それぞれの発達段階に応じて繰り広げられる「遊び」から、子どもたちがどのように感じ、どのような学びの芽生えへとつながっていくのかを、お伝えしていきます。子どもの「育ちの根っこ」の部分である幼児教育の奥深さ・楽しさを共有することで、小学校以降の育ちや学びにつながっていくことを願っています。





## 教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は4月から5月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）5月号

- ・特集1 家庭学習の工夫改善
- ・特集2 外国につながる子どもの支援

「道徳教育」（明治図書）5月号

- ・端末 or 非端末？ メリットを生かした1人1台端末活用法

GIGA スクール構想により「1人1台端末」時代が到来しました。それ以前から教育にもICT機器が導入されてきました。ただ「1人1台」ではないので、どちらかということから児童生徒に向けて一方通行でした。もちろん「コンピュータ室」では1人1台またはそれに近い状況にあったわけですが、日常の授業で活用するには数が少なすぎました。今は全国で1人1台端末を前提として教育が語られます。教育雑誌のタイトルにも頻繁に登場します。新しい道具が導入されたわけですから、これを有効に使わないのはもったいない。だから「こんな便利な使い方がありますよ、有効な授業ができますよ」ということになるのは当然のことでしょう。つまり「メリット」ばかりが語られてきました。これに異を唱えると、「時代に逆行」「時代錯誤」と思われかねない空気がありました。しかし、導入後2年以上が過ぎ、「メリット」ばかりではなく「デメリット」も語られるようになってきました。何より、日々スマホ・ゲーム機などに長時間触れている子どもたちに、学校でまで端末を使わせる必要があるのかとさえいわれています。また、授業の進め方においても、端末の利用が常に有効とは限らないことがわかってきました。「道徳教育」（明治図書）5月号では「端末 or 非端末？ メリットを生かした1人1台端末活用法」という特集を組み、どのような場面で端末を使うことが有効であるのかを検討しています。ちなみに巻頭で8人の先生に「積極的活用派」か、「消極的活用派」かを聞いた記事では、8人中6人が「消極的活用派」です。このことは道徳教育において端末はいらぬということではなく、必要などころで効果的に活用することが望ましい、ということではないのでしょうか。もちろん本編では道徳教育における「1人1台端末」の有効な活用方法が数多く提案されています。

（葭仲）

「こころの科学」（日本評論社）5月号

- ・特別企画 親子を支援する ト라우マと愛着の視点から

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）5月号

- ・特集1 新年度、子どもを「見る」技術
- ・特集2 若手教員へのアドバイスで心がけていること

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集・東洋館出版社）5月号

- ・子どもの学びの姿からつくる授業とは？ **授業づくりのアドバンス**  
～理科、道徳科、自立活動、生活単元学習～

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）5月号

- ・特集Ⅰ 資質・能力の育成に向けた授業づくり1 ―知識及び技能の指導と評価を軸に②―
- ・特集Ⅱ 総合的な学習の時間 学校教育目標の実現に向けた総合的な学習の時間の充実

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）5月号

- ・特集 「令和の日本型学校教育」を担う教師を育てる

教育科学「国語教育」（明治図書）5月号

- ・特集 「板書」の正解 手に入れたい全技法

教育科学「社会科教育」（明治図書）5月号

- ・特集 思考の山場を生み出す！発問づくりの基礎基本

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）5月号

- ・特集 算数の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的実現

